



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより



ためし



令和7年9月10日号 文責 上久木田 雄二

どこを見る



最近の若者は、上昇志向がないのだそうです。

社会構造の変化で、年功序列や終身雇用から成果主義とか実力主義への移行が原因かと思ったらそうではないようです。

成果主義等は、自分の実力だけで這い上がるのですから、上昇志向という考え方そのものが生まれにくいのです。

一方、終身雇用や年功序列に支えられた時代は、同期の一部しか昇進しないのですから、上昇志向は必要な「かけひき」だったと考えられます。

しかしながら、最近の若者に見直されているのが、終身雇用や年功序列だということです。「公務員」がなりたいた職業の1位になったことでも理解できます。

(実際公務員も少なからず成果主義が求められています。教員は別のくくりで6位程度にランクインしています)

就職してから同じ職業を続けることを望み、少しずつでもいいから給与が増える道を選びたがるのに、上昇志向はなくなっているのはどうしてなのでしょう。

あいつは「上ばかり見ている」と言えば、陰口の代表格です。

上司に取り入るのが上手で、結果出世するという人を揶揄する言いぶりだと私は思っています。若者は、この言葉を他人から言われることに恐怖を感じるのだそうです。

「よそ見をしている」と言えば、集中していない姿を想像します。別のことを考え、すべきことに注力できない様子がすぐに思い浮かびます。



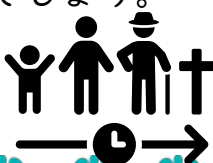
その反面、「まっすぐ前を向く」と聞けば、その人の立ち姿や取組方まで思い描きます。長い時間同じことをやり続け、やり遂げるようなイメージも沸きます。

前だけを見ず、上やよそを見ることに何となく後ろめたさを感じるのが日本人なのかもしれません。

文部科学省の調査で、「勉強はできなくてもいい」とか「勉強について家庭で話題にしない」という結果が増えていることを聞きました。

本当にそれでいいのでしょうか。私は人口減少の日本を支えるのは「思考力・生きる力(頭脳・知恵)」だと思っています。上を目指し、上を向く上昇志向は必要なのだと思います。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

